



挨拶をする学生

イベント・シンポジウム等実績報告書 | 配分事業費：350千円

「仮面ライダー展」ワークショップ（教育普及活動）

目的・趣旨 浜松市美術館利用者の鑑賞サポート、美術館における教育普及活動充実、さらに同館と本学との連携構築

日時・場所 平成28年7月9日から平成28年8月26日
浜松市美術館、静岡文化芸術大学

体制 (実施代表者) 文化政策学部 芸術文化学科 准教授 立入正之
(実施分担者) 文化政策学部 芸術文化学科 教授 小針由紀隆

共催・後援等 (共催) 浜松市美術館、東映㈱

内容

本事業は「本学特別（イベント・シンポジウム）研究」と「地域連携実践演習授業」から成る、合同プロジェクトの参加メンバーが主体となり企画から運営までおこなった。構成員は、本学の教職員、学外の研究者、文化政策・デザイン両学部さらに全学科全学年所属の30名以上の学生など、総勢約40名である。また、プロジェクトでは、本学学生の主体的参画と、アートマネジメント教育・研究の実践継続の場となることが期待されたが、博物館学芸員課程学生や芸術文化学科の学生のみならず、文化政策学部とデザイン学部の多領域の学生が参画した。本学学生は展覧会や広報活動（本学学生が広報物をデザイン）にも積極的に取り組み、展覧会担当学生によるギャラリートークも経験した。ワークショップ実現までの4月から7月までの準備期間、学生は毎週水曜日昼休みに全体ミーティングをおこない、さらに適宜ワーキンググループに分かれて活動した。さらには、浜松市中心部と浜松市美術館周辺のアート散策地図を、デザイン学部学生のデザインにより製作した。



チラシ



アート散策地図

結果・成果

ワークショップ実施は2日間で、各日午前と午後2回ずつ開催した。各回の総勢は100名ほどで、内訳は子供30名、保護者30名ほどと、美術館と本学の運営スタッフである。他学の博物館実習（インターン）学生や近隣高校や他大学教員のスタッフ協力も得られた。本研究プロジェクトにおいて、参加者（子供と保護者）から満足や感謝のありがたい言葉を予想以上にいただき、実社会に即通用する本学の教育成果を発信できた。実践にあたり基本的には学生の主体性、独自性を重視した。文化・芸術研究センター、地域連携室、企画室、博物館学芸員課程の教職員の尽力の成果であることはまちがいない。さらには、実践の場を提供して下さった浜松市と浜松市美術館の方々の御理解と御協力にも感謝したい。今回は浜松市美術館と本学の初めての連携研究となったが、今後も同館はじめ各館との研究協力そして連携を充実させたい。



美術館を案内する学生



質問に答える様子